

平成 29 年第 1 回那覇港管理組合議会（2 月定例会）

平成 2 9 年度 施政方針

平成 2 9 年 2 月 1 4 日

那覇港管理組合

平成29年度 施政方針

ハイサイ、グスーヨー チューウガナビラ。

平成29年 第1回定例会の開会にあたり、各議案の御審議に先立ちまして、那覇港運営にあたっての施政方針について申し述べ、議員各位、県民・市民の皆様のご理解・ご協力を賜りたいと存じます。

1. 運営の基本姿勢

那覇港の昨年の主な動きとしましては、まずは物流面で、那覇港 総合物流センターの建築工事が本格化し、11月には物流棟^{とう}の基礎工事に着手しました。

また、コンテナターミナルに関しまして、我が国の代表的な総合物流会社である三井倉庫株式会社が新たに中核企業となった「那覇国際コンテナターミナル株式会社」^{ニクティ}NICTIによる10年間の運営が昨年1月からスタートしました。

昨年的那覇港公共国際コンテナターミナルでの外貿コンテナ取扱貨物は、速報値で約6万8千

ティ-イ-ユ-

TEU、平成27年から約5%減でしたが、取扱貨物量の増加に向けて、NICTIは様々な荷主へのセールスや新規航路誘致等、積極的な取り組みを行っているところです。

那覇港管理組合としましても、港湾施設の整備と合わせ、国内外へのポートセールスや新規航路誘致・輸出貨物増大などの取り組みを着実に実施し、港湾機能の強化を図ってまいります。

人流面のクルーズ船につきましては、昨年はクィーンエリザベス、ゴールドエンプリンセス、さらには16万トン級オベーション・オブ・ザ・シーズ等7隻が初寄港しました。また、3隻同時寄港が8回あり、年間合計で過去最高193回の寄港を記録しました。

今年は、1月31日時点で、過去最高だった昨年をさらに上回る215回の寄港予約が入っています。このような急増するクルーズ船の需要に対応するため、昨年11月に開催された国の交通政策審議会 第65回港湾分科会の議を経た港湾計画の

一部変更により、第2クルーズバースを港湾計画に位置付けたところであります。引き続き、クルーズ船の円滑な受入れ、クルーズ船客^{せんきやく}の満足度向上に向けた様々な取り組みを進めてまいります。

一方、大規模災害への対応や一部老朽化した港湾施設の改修についても十分な対策を行い、安全でかつ利用者の信頼に応えられる港づくりを進めてまいります。

2. 平成29年度予算編成

平成29年度の予算編成にあたっては、ただいま申し述べました基本姿勢に基づき、また、限られた財源の中で沖縄振興特別推進交付金を積極的に活用しつつ、重要な施策に効果的に配分することを基本としております。

その結果、平成29年度予算案は、

一般会計において68億5,956万9千円

特別会計において17億1,509万9千円

の規模となっております。

(主要事業の説明)

平成29年度の主要事業について、4つの重点施策に沿って説明いたします。

1) 流通港湾としての機能強化

物流機能の高度化を図るとともに、流通加工等により付加価値の高い貨物を創出する那覇港 総合物流センター整備では物流棟^{とう}本体工事に着手するとともに、公募により、総合物流センターの運営事業者を選定いたします。

また、海上物流コストの低減に資する片荷輸送の解消、貨物量増大に向けて、荷主向け社会実験及び船社支援を行います。

2) 国際観光・リゾート産業の振興

急増するクルーズ船の需要に対応するため、クルーズ船^{せんきやく}客を受け入れるための「おもてなし」として、歓迎セレモニーや各種イベントを実施します。また、港湾計画に位置付けた第2クルーズバースの早期事業化に向けた取り組みを進めてまいります。

ポートセールスでは、クルーズ専用の泊^{とまり}8号岸壁での利用平準化に努めるとともに、沖縄県等とも連携して欧米系クルーズ船の寄港増を目指してまいります。

また、離島振興に資する取り組みも重要であり、離島航路の拠点である泊^{とまり}ふ頭地区において、離島住民や観光客の快適性・利便性の向上を図る施設の整備を引き続き進め、離島航路を支えるべく取り組んでまいります。

3) 安らげる空間づくり

臨^{りんこう}港道路浦添線の緩衝^{かんしょうしゅうけい}修景緑地として、浦添ふ頭地区において東側^{ひがしがわ}緑地の整備を進めます。

また、那覇港のウォーターフロント地区において、「みなとオアシス なは」に登録された各施設の管理者等と連携して、イベントやワークショップの開催により那覇港の魅力を発信してまいります。

4) 港湾施設の安全性の向上・災害対応力の強化

大規模地震発生時に円滑な救命活動や物資輸送

を確保するため、沖縄県 地域防災計画 緊急輸送道路に指定されている臨港道路 港湾2号線における液状化対策の他、臨港道路 浦添線の無電柱化事業を進めてまいります。

また、老朽化が進む港湾施設の安全性を確保するとともに、予防的な保全により既存施設の延命化を図るため、護岸の改修、設備の更新、上屋の改修等、港湾施設の計画的な維持管理に取り組んでまいります。

これらの事業を進めるため、平成29年度予算に所要額を計上しております。

以上、平成29年度 那覇港の運営にあたり、私の所信および主要な事業について述べてまいりました。

成長著しいアジアのダイナミズムを取り込み、沖縄県の経済発展と県民生活の向上を図るためには、那覇港の発展は必要不可欠であります。

そのため、今後とも那覇港の効率的かつ適正な

管理運営と整備に努め、全力を尽くす決意でございます。

議員各位及び県民、市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願い申し上げます、私の施政方針といたします。

イッペー、ニフェーデービル。